

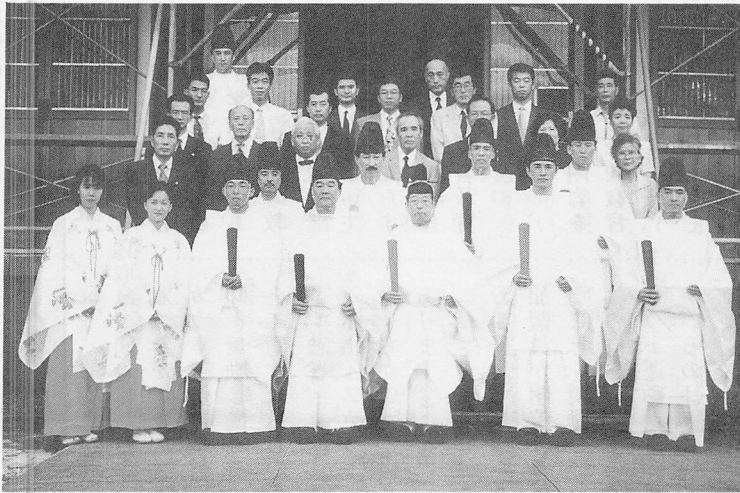
鳥取神青通信

第4号

発行元 鳥取県神道青年会
編集 若 華 会

大東亜戦争終結五十周年特別事業

「英霊感謝祭」斎行



祭典終了後、参加者全員による記念撮影

平成七年八月二十七日、鳥取県護国神社に於いて大東亜戦争終結五十周年特別事業、「英霊感謝祭」が斎行されました。

これは県神青の主催による七年度事業で、斎主は永江則英宮司、又戸板重昭禰宜にご奉仕頂き、祭員には神青会員と女子神職会員が相集いました。

時刻、斎服を着装された永江宮司が浄衣姿の祭員ならびに御参列頂きました方々と共に参進され、御神楽の音も高らかに祭典が斎行されました。神饌には、海川・山野の種々の品々はもとより、各単位会より地域の特産物を持ち寄りお供えさせて頂きました。

祭典は厳肅なる内に執り進み、平和の礎として鎮ま

り座す護国の英霊に感謝の誠を捧げる永江宮司の祝詞が快晴の夏空に響き渡りました。続いて「剣の舞」、女子神職の福田恭子・山中庸子両氏による、「巫女の舞」が奉納されました。鳥取県神社庁長松田幸史氏をはじめ各支部長、神青OB

八年度事業に向かつて

鳥取県神道青年会

会長 松田

直也

まずは平成七年度総会に於いて会長を拝命することになり、役員共々ご指導・ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

さて、戦後五十年また、神道青年会も創立三十年を過ぎ新たな一歩を歩き始めました。

時代は物から心の時代と変わって行き、神社神道の立場も今後、尚一層重要な責任、役割を果たさなければ成らないと思います。

このような中で我々青年

の方々、そして神青役員が玉串を捧げ、撤饌・祭主一拝の後に祭典は滞りなく終了致しました。

この後、鳥取厚生年金会館に於いて神道青年会総会が開会され、役員改選にて松田直也氏が会長に就任されました。



神職が如何なる行動を取らなければならないのか、一般のアンケート結果を一部添付しておりますが、此れ等をもとに今後の研修、事業を図って参りたいと思っております。アンケートにご協力して頂きました先輩諸氏に改めて感謝申し上げますと共に微力ではあるが時代を担う青年神職として行動して参りたいと思います。

今後共、尚一層のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

ボーイスカウトと信仰

長田神社権祿宣

ボーイスカウト鳥取第二団隊長 秋本 道徳

青少年教育には、学校教育・家庭教育・社会教育がありますが、学校教育はあくまでも一般的な知識の教授が主であり、また家庭での教育はしつけとかよい生活習慣などを知らず知らずのうちに身につけさせてゆくものでしょう。社会教育は青少年が将来、社会の一員として活躍するために、これまた重要な教育内容をもつものであり、学校教育でえられない知識と技能や、家庭教育でえられにくいしつけを身につけさせるためには、必要欠くことのできないものといえるでしょう。現代の傾向として、精神文化より、物質文明がはなはだしく優先されている今日をみると、青少年に信仰を奨励する宗教関係以外の教育団体としては、ボーイスカウト以外にその例をみ

ボーイスカウトには三つの「ちかい」というものがあります。その第一条に「神（仏）」と国とに誠を尽くしおきてを守ります」とあり、加盟員が明確なる信仰を持つことを奨励しています。この自然科学の時代に、スカウト運動が信仰を奨励しているのはどうしてでしょうか。スカウト運動の創始者ベーデンパウエル卿は次の様に言っています。「君達が成功・すなわち幸福への歩みをふみ出そうとするならば、無宗教なイカサマ師の仲間にはき入れられないのを防ぐだけでなく君の生活に宗教的基盤をもたせなければならぬ」と。神



「赤い羽根共同募金」の奉仕活動

とか仏に対する尊敬の念は、このようにスカウト運動の根源であり、今日においてもますますその必要度が増加しているのではないでしょう。この国のスカウトのちかひにも、その第一に神（又は仏・宗教・信仰）に誠をつくし……という決意がかかげられています。子供達に「幸福ですか」と聞いた時、何と答えるでしょうか。何を幸福とみるかは、人生観や価値観の違いによって異なります。その人生観や価値観を決めるのに最も大切な力は信仰なの

です。この意味で、ボーイスカウト運動の成立する背景として欠くことのできないのは、神または仏に対する信仰なのです。八つのおきての中の一つに「スカウトは誠実である」という条文があります。現在多くの教宗派がありますが、これを神道的にひもといてみますと、神道で最も大切にす

ト運動の根源の一端を述べましたが、次代を担う青少年達のために我々は何をすればよいのでしょうか。紙面の関係上、又の機会に……

神青協中央研修会



中央研修会参加メンバー

神青協中央研修会
日本人の心とことば
～言葉の幸はひ～



東・中・西単位会報告

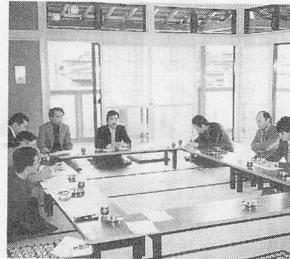
東部若葦会

東部若葦会は平成七年度の事業として、昨年十一月十八日に用瀬町（観光物産センター）において会員十一名の参加により卓上研修会を開催致しました。

この卓上研修会は、東部若葦会の恒例事業の一つで毎年いろいろなテーマを決め、会員同士が互いに意見交換を語り、更には新しい発見を見つたりとなかなか意義ある研修会です。

七年度は日頃、神社奉仕していく上で考えられていることや、素朴な疑問についてを、当日出席者に提出していただき、それらについて討議を進めていきました。いくつか例を挙げますと、地鎮祭のときなどの四方清めの方法、忌み穢れの期間・取扱いの解釈、また潔斎・自祓の方法等々で今後神社奉仕をしていく上で

すぐに役に立つ事柄などについて研修しました。限られた時間ですべてが



研修風景

解決するわけではありませんが、これからも卓上研修会の更なる充実を図っていきたいと考えています。

中部青年神職会

中部青年神職会では、「日の丸パレード」・「建国祭々典奉仕」等、各事業に毎年取り組み、又何かを記念した事業を単年度で実施しておりますが、今年度は、「鎮霊神社秋季大祭奉仕」を記載させて頂きます。

鎮霊神社（前田定彦宮司）

は、鳥取県中部（東伯郡泊村より西伯郡中山町まで）の出生者で、戊辰戦争以降の英霊の御霊を祀る、鳥取県中部地区の遺族の皆様への心の寄りどころになっている神社です。

鎮霊神社では、四月十五日に例大祭、十月二十日に秋季大祭と、二つの大祭が執り行われておりますが、四月十五日の例大祭は、以前招魂祭といわれ、中部地区全域でお祭一色になっておりました。

十月二十日の秋季大祭（数年前までは、八月十五日で夏季大祭）では、中部青年神職会の会員が、祭員として祭典奉仕をし、宮司様以下、諸先輩のあたたかい眼差しの中、厳正な祭式行事を行ない、全員の研修の場となっております。

祭典終了後は、直会・会場を変えて反省会並びに親睦会を行ない、今後の祭式

行事に自信が持てるよう、会員一同、有意義な一日とっております。

西部青年神職会

私たち西部青年神職会では、毎年六月の頃に、史跡めぐりを行っております。

これは、研修と会員相互の親睦を深めることを目的に、西部青神一年間の行事の中でも、大事なものとなっております。しかも、何年も前の先輩たちから引き継いだ行事でもあります。

行き先や日程等を、西部青神の会員で企画し、会員のOBであります、兼職として日本交通に勤務されておられる森山先輩に、観光バスの便宜を図っていただいております。

参加者は、西部青神の会員、OB、それに一般の参加者です。一般参加者は、会員が氏子さんを誘ったり、あるいは、兼職の会社、学校等の職場から誘ったりし

て、参加者を募っております。

ここ3～4年でめぐったところは、島根石見銀山、物部神社、岡山中山神社、鳥取宇部神社、本年は、広島吉田町清神社でした。毎年、楽しい一日です。（西部青神会長・細谷）

「暦と祭」

去る五月二十五～二十六日の二日間、第二十九回中国地区氏子青年・神道青年会合同研修会が、広島県福山市鞆町で開催されました。



研修会の基調講演

全日程を通して、多少汗ばむ位の暑さでしたが、天候もよく、鳥取からの氏青三名・神青五名の計八名を

含む九十三名が参加し、盛
会裡に終わりました。

主題「暦と祭」即ち、我
々の先祖が旧暦の中で、四
季を感じながら暮らし、年
中行事を行い、神社では祭
事を執り行っていたものが、
現在は忘れ去られようとし
ており、歴史と伝統の町、
鞆の浦で今一度暦を見直し、
祭りについて考えてみたい。
この要旨のもと本会は、祭
りと暦の関係を中心に、研
修いたしました。

初日は、地元の伝統行事
で歓迎され、開講式の後、
基調講演として、暦の会会
長・文化女子大学教授の岡
田芳朗先生に旧暦のお話、
続いて対潮楼住職伊藤良厳
先生の講話の後、地元伝承
芸能を鑑賞しながら懇親会、
翌日は、沼名前神社に正式
参拝し、歴史民族資料館館
長池田一彦先生の瀬戸内の
歴史と文化の講演、その後、
仙酔島に渡り親光鯛網の見
学をし、閉講式を終え全日
程を終了しました。

新入会員紹介

氏名 米原 紀昌

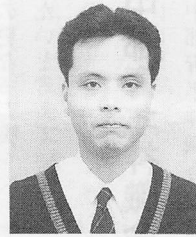
(ヨネハラノリマサ)

住所 泊村泊一五〇四一

奉務神社

灘郷神社

趣味 マリンスポーツ等



神職としては十年余りの
経験はありますが、何分若
輩者で、何かと諸先輩方に
は神楽をはじめ、諸作法に
ついては、御教授いただき
ないと存じますが、御
指導賜れば幸甚に存じます。
一生懸命頑張ります。



氏名 鳥谷 学

(トヤマナブ)

住所 郡家町大字宮谷五二

奉務神社

賀茂神社

趣味 音楽鑑賞

京都より昨年、自社の賀
茂神社に帰って来ましたが
神職には、まだまだ未熟者

神青役員紹介

会長 松田 直也(東)

副会長 田中 倫明(東)

理事 船越 芳昭(中)

細谷 博高(西)

青砥 一彦(西)

池本 靖(中)

井上 智史(中)

大澤 祥之(東)

門脇 豊文(西)

霧林 敦(東)

安江 昌史(西)

湯浅 真巧(中)

横山 景昭(東)

遠藤 隆(西)

前田 史宣(中)

宇田川和人(東)

直前会長 佐々木克秀(西)

平成7年度決算及び8年度予算書

〔収入の部〕

科 目	8年度予算額	7年度決算額
会 費	108,000円	108,000円
助 成 金	200,000円	200,000円
雑 収 入	811円	39,248円
繰 越 金	82,189円	126,534円
収 入 合 計	391,000円	473,782円

〔支出の部〕

科 目	8年度予算額	7年度決算額
総 会 費	30,000円	30,000円
役 員 会 費	20,000円	19,649円
事 業 費	50,000円	50,240円
対外派遣助成	150,000円	171,000円
事 務 費	25,000円	23,704円
神青協負担金	57,000円	57,000円
地区負担金	30,000円	30,000円
特別積立金	10,000円	10,000円
予 備 費	19,000円	0円
支 出 合 計	391,000円	391,593円

ですので、今後ともご指導
ご鞭撻頂きます様、宜しく
お願い申し上げます。



このたび通信第四号を発

編集後記

行するにあたり、地域でこ
活躍の神職の中から若輩会
員である秋本氏の原稿を
掲載させて頂きました。と
かく事業報告で埋め尽くさ
れがちになるこの通信です
が、青年神職個々それぞれ
の現状や思いを伝えるもの
になれば、神明奉仕に務め
る会員諸氏の参考にも、又
励みにもなることと思いま
す。

編集部